

2022年度秋学期 授業に関するアンケート総評

同志社女子大学 教育開発支援センター長
和氣 早苗

はじめに

「授業に関するアンケート」は、個々の授業改善を第一の目的として実施されているが、全体を俯瞰することにより、全学的な傾向や各学科の特徴を見ることができ、それによってカリキュラムの妥当性を確認したり、FDの方向性を見いだすことができると考えている。

今回2022年度秋学期は、授業アンケートの回答率回復を引き続き目指したのでその結果について、また、2024年度からの実施が決まっている同志社女子大学データサイエンス・AI教育プログラム（DWCLA-ADa）を見据えて、今期より開講した「データサイエンス基礎」の結果についても着目する。

※アンケートの方法

- 原則として全科目で実施
- 授業第13,14,15週目での実施（2023年1月6日（金）～2月9日（木））
- 「第14回目の授業開始時」の実施を推奨して教員に依頼
- マナーを用いたオンライン形式
- アンケートの質問項目と回答方法は本報告末の付録1に記載

総評

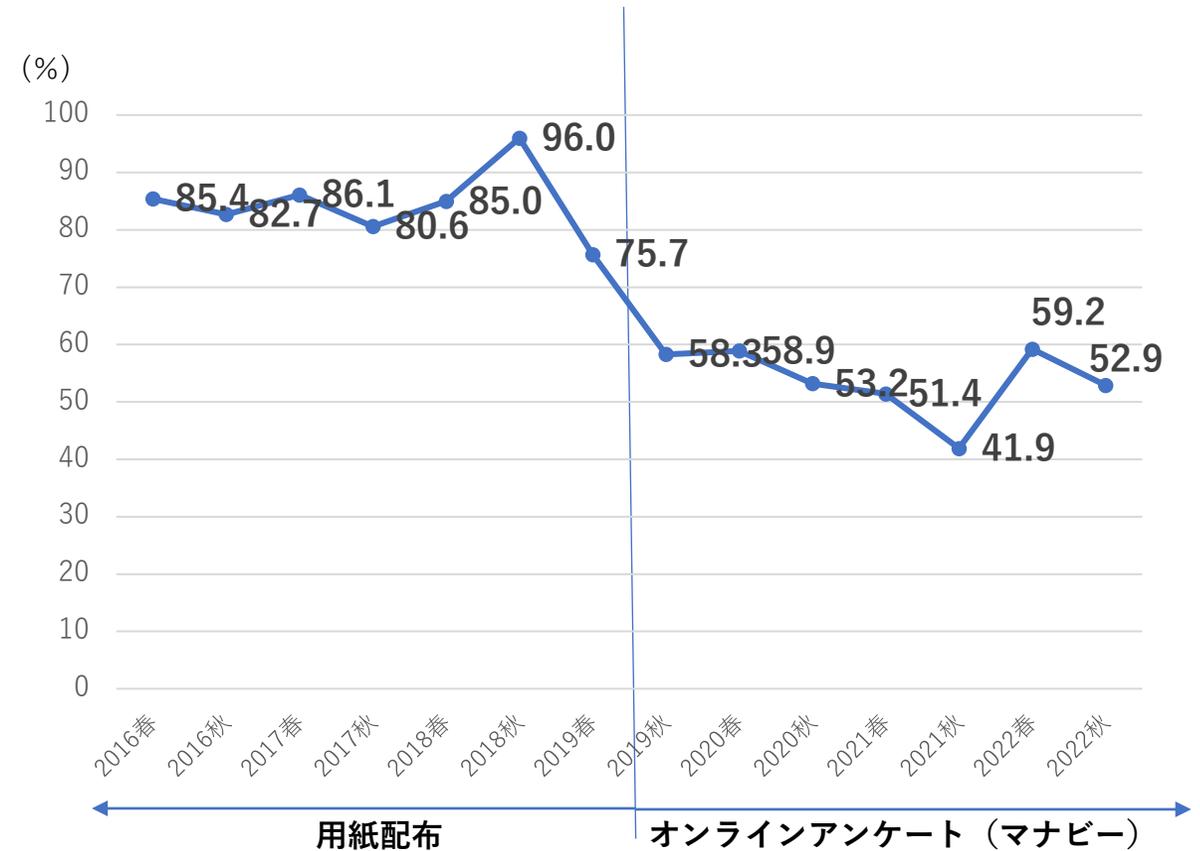
今期授業アンケートの総評として以下の7点を挙げる。
各項目の詳細について次ページ以降に述べる。

- (1) 授業アンケート回答率52.9%, 50%維持も前回より低下**
- (2) 国際教養、食物科学のアンケート回答率が高い**
- (3) 全学総評価平均はますます良好**
- (4) 国際教養学科が多項目で高評価**
- (5) 授業で向上した力(DWCLA10)は思考力**
- (6) 各学科の特色に対応したDWCLA10が向上**
- (7) データサイエンス基礎の履修理由は「必修だから」と「内容への関心」**

(1) 回答率52.9%, 50%維持も前回より低下

• 今期回答率… 52.9%

- 50%は維持したものの、回復傾向にあった前回よりも低下した。
- 前回より以下3つの「回答キャンペーン」を実施したが、初回（前回）に効果はあったものの今回は大きな効果は得られなかった。
 - ①第14週目の授業の冒頭で実施する「アンケート実施の標準モデル」を提示推奨
 - ②専任教員に第14週目の毎朝、実施依頼のメールを送付
 - ③嘱託講師には、第13週目にアンケートの実施を促す「依頼文書」を配布
- 75%（オンライン化初回）を目標とし、新たな対策を検討、実施する必要がある。



(2023年度春：のべ履修者数55,337, 回答数29,264)

授業アンケート回答率の推移

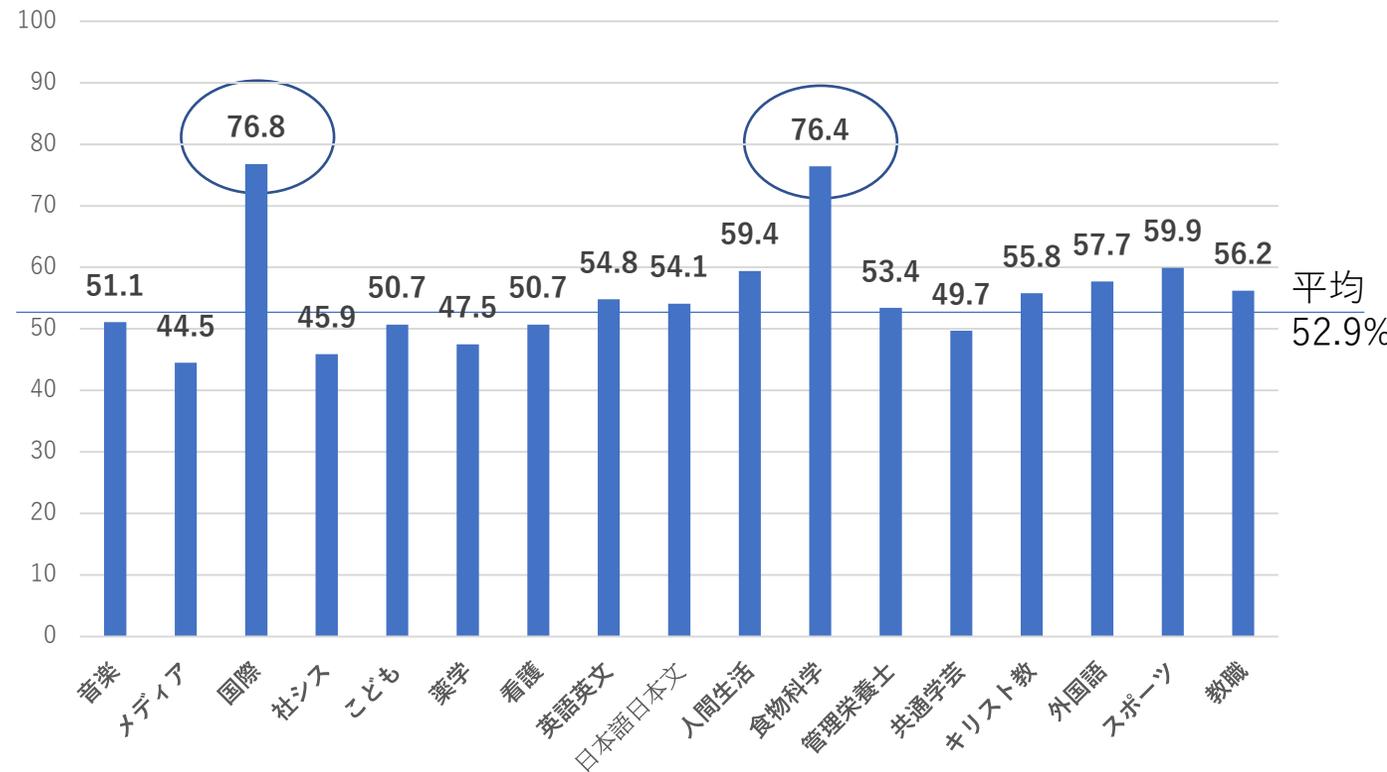
(2) 国際教養、食物科学の回答率が高い

- 国際教養学科 76.8%、
食物科学専攻 76.4% の回答率

(前回と同じ2学科)

→回答を促す方策として、
「必修授業にて、他科目の未回答アンケートへの回答も促す」といった工夫を行っているとのこと。

このような工夫を今後他学科とも共有していく。

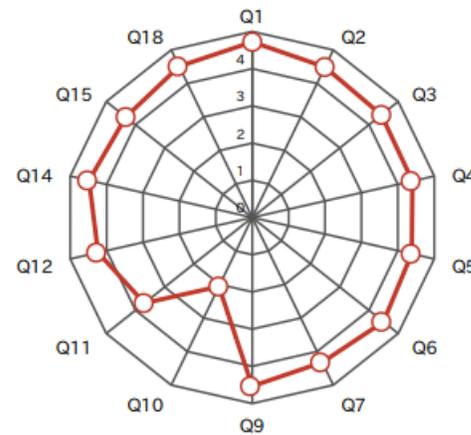
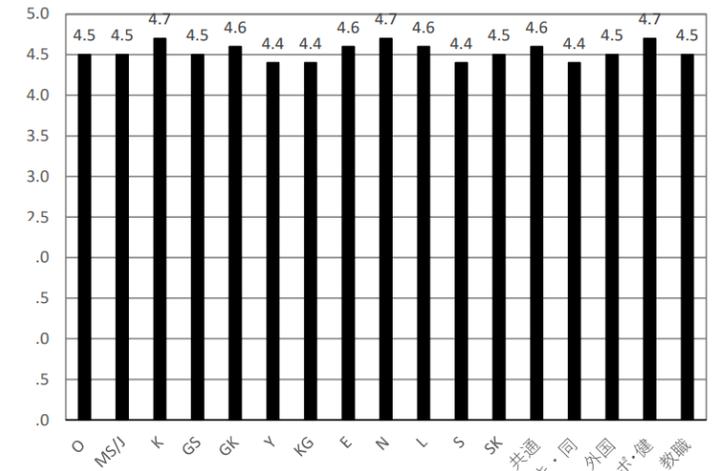


学科別授業アンケート回答率(%)

(3) 全学総評価平均はますます良好

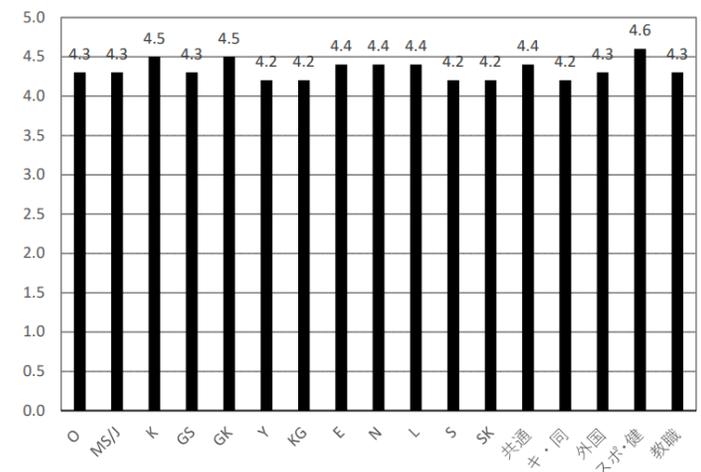
- 全体俯瞰では、ほとんどの質問で平均評価4を超えており、総括としてはますます良好な結果と思われる。
- 特に、授業に対する満足度を問うQ9、到達目標を達成できたと思うかを問うQ15、の評価が学科を問わず良好である点、評価してよいと思われる。
- 平均評価4を下回るQ11は「積極的な意見表明や質問」を問うものである。低すぎる結果ではないとはいえ、アクティブラーニングなどの導入で評価向上させる努力も必要であろう。
- なお、低評価に見えるQ10は自主学習時間を問うものであり、今後当該チャートから除外予定。

Q9 満足度



全学評価平均
(各質問項目は付録1参照)

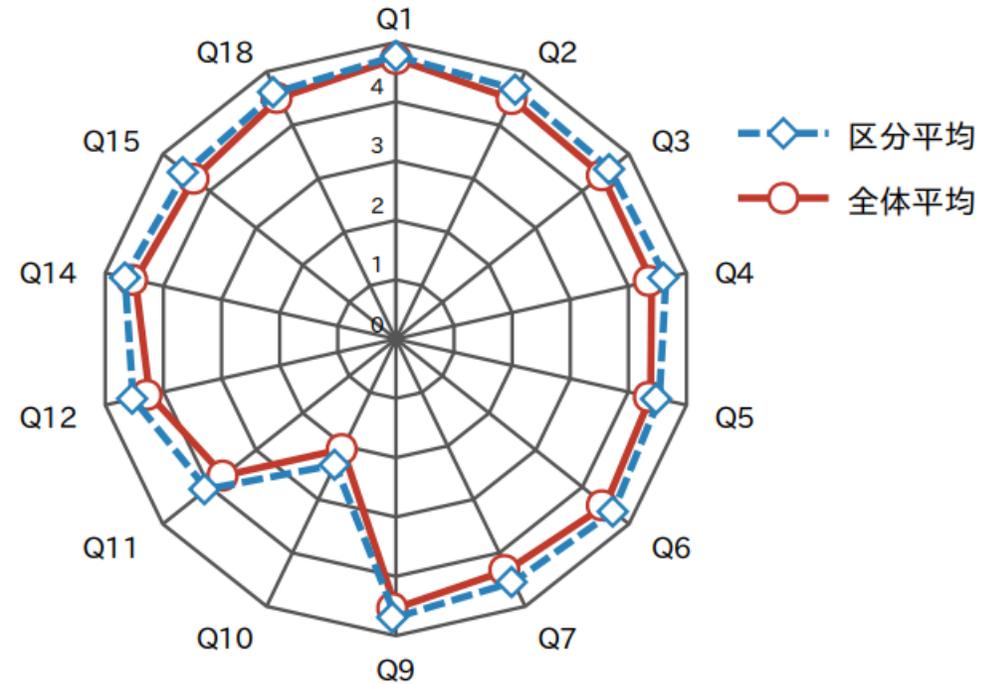
Q15 到達目標達成度



満足度 (上)、到達目標達成度 (下)
学科別平均

(4) 国際教養学科が多項目で高評価

- **国際教養学科** の評価が今期もまた高かった。右記グラフの14つの質問のうち、9つの質問項目でトップポイントを得た（同率トップを含む）。
- **理解促進工夫、自主学習促進工夫、到達目標達成指導、双方向性、授業理解度確認、授業レベル、満足度、関連分野学習欲**、などが学科比較での評価トップ項目である。
- 「**双方向性**など様々な**学習・理解促進**のための工夫を行い、また**理解度**を確認することで適切な**授業レベル**を保っている。その結果、**学生の授業満足度は高く、関連分野の学習意欲も高まる**」という大変効果的な教育が行われている様子が見えてくる。



国際教養学科の結果(一部)
(各質問項目は付録1参照)

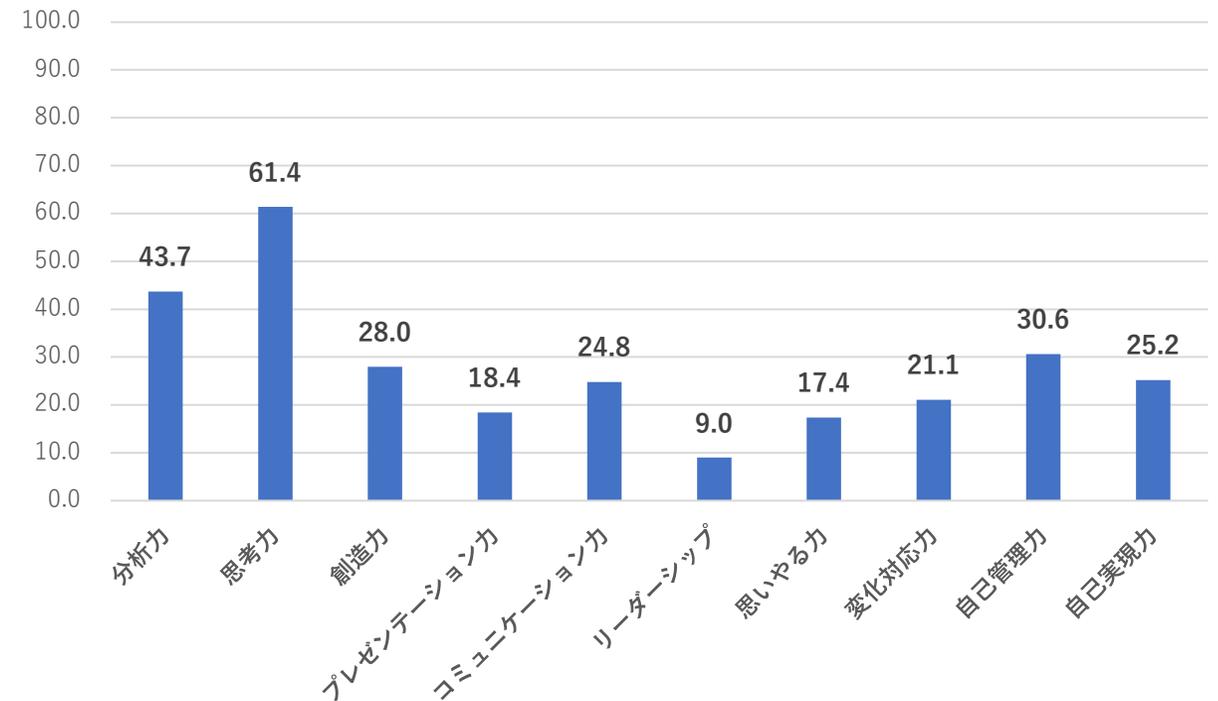
(5) 授業で向上した力(DWCLA10)は思考力 (全学平均)

- 授業で伸びたと感じる力は、
思考力(61.4%が選択)が最も多く、次いで
分析力(43.7%)、**自己管理能力**(30.6%)であった。

→分析と思考は基礎として必要な力で、多くの授業の範疇でもあるため、多く選択されたと考えられる。

- 残りの項目についてはいずれも30%を下回っている。

→それぞれの授業に特徴があるため、必ずしも全体平均が高くある必要はないものの、これからの時代に特に必要だとされる、**コミュニケーション力**、**創造力**などの力をつけるための授業の増加や、各授業内での工夫は望まれる。



授業によって向上が感じられた力 (DWCLA10) (%)

(6) 学科の特色に対応したDWCLA10が向上

力が向上したと感じた割合が最も多い科目区分

DWCLA10	選択率が最も高い学科科目
分析力	食物・食物科学専攻 科目
思考力	国際教養学科 科目
創造力	メディア創造学科 科目
プレゼンテーション力	現代こども学科 科目
コミュニケーション力	外国語 科目
リーダーシップ	スポーツ・健康 科目
思いやる力	スポーツ・健康 科目
変化対応力	現代こども学科 科目
自己管理力	食物・食物科学専攻 科目
自己実現力	教職科目

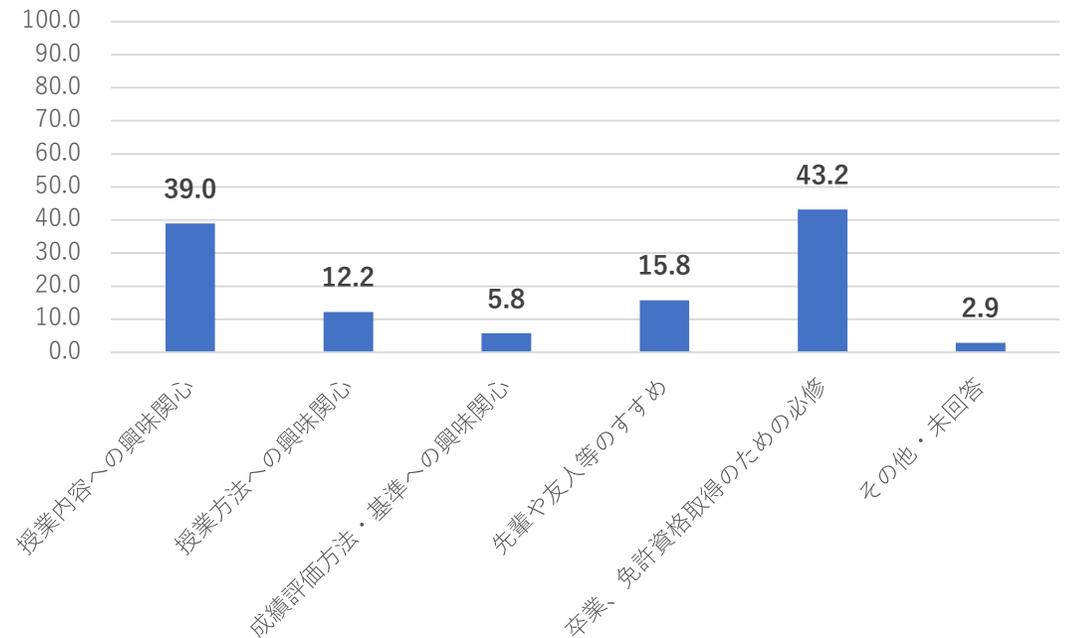
• 今回は比較的多くの学科が、各力のトップとなった。

• **分析力 … 食物科学専攻、
創造力 … メディア創造学科、
コミュニケーション力 … 外国語科目、
変化対応力 … 現代こども学科、**

などが高選択率。各学科の特色が現れた評価結果と思われる。

(7) データサイエンス基礎の履修理由は、「必修だから」と「内容への関心」

- 2024年度より、同志社女子大学データサイエンス・AI教育プログラム（DWCLA-Ada）の実施が決まっている。それに先駆け、今期から開講した「データサイエンス基礎」の履修者数は1,098名であり、**全1年次生の72%の履修率**であった。
- 履修理由の上位は、以下のとおり
**免許・資格の必修科目のため(43.2%)、
授業内容への興味・関心(39.0%)**
本授業は現状必修科目ではないが、履修指導で履修を促したためこのような回答になったのではないかとと思われる。
- 「目標達成度」や「満足度」は他科目と比較して平均的な評価、本科目の受講でついたと思う力は分析力(68.7%)と思考力(55.4%)であった。



授業履修の理由（データサイエンス基礎） (%)

おわりに

2022年度秋学期の授業に関するアンケートの総評として、7項目を挙げ、その内容について述べた。

前回回復の兆しが見えたアンケート回答率だったが、今回は低下をした(59.2%→52.9%)。回収率75%の目標を目指して高回答率の学科にヒアリングを行い、回答率を上げる工夫を共有するなど、次の一手を考えていく所存である。

アンケートからは、全学的な評価の傾向と、学科の傾向、またそれぞれ個別科目の評価が読み取れる。各教員が個別の結果に基づいて授業改善を行っていただくことはもちろんだが、学科、学部あるいは全学的な授業改善およびカリキュラムの改正を検討する際などにおいても、本授業アンケートを利用していただけたらと考えている。

付録1：アンケート項目と回答基準(次ページ)

Q1	授業内容はシラバスに合っていましたか。
Q2	受講生の理解度を確かめながら授業が進められていましたか。
Q3	授業レベルは自分に合っていましたか。
Q4	教員からの一方向的な授業ではなく、教員と受講生又は受講生同士の双方向性に工夫がされてきましたか。
Q5	提出物に対するフィードバック（採点、添削、マナビーでのコメント、チェック後の返却など）は効果的に行われていましたか。
Q6	言葉による説明だけでなく、受講生の理解を促進する工夫がなされてきましたか。
Q7	自主学習を促す工夫がなされてきましたか。
Q8	工夫してほしいと思ったことを選んでください（複数選択可、なしも可）。 1.分かりやすいパワーポイントや板書 2.聞き取りやすい話し方 3.教科書や配布資料の活用 4.マナビーの活用 5.トラブルへの対応
Q9	この授業は全体として満足できる内容でしたか。
Q10	この授業の予習、復習、自主学習（授業時間90分を除く）に1週当たり平均どれくらい時間をかけましたか。
Q11	あなたはこの授業に関して積極的に意見を述べたり質問をしたりしましたか。
Q12	あなたはこの授業の分野又は関連分野の学習を更に深めたいですか。
Q13	あなたがこの授業を履修した理由は何ですか（複数選択可）。 1.授業内容に興味・関心があった 2.授業方法に興味・関心があった 3.成績評価方法・基準に興味・関心があった 4.先輩や友人等の勧め 5.卒業又は免許・資格の取得に必要なから
Q14	到達目標を達成しやすいように指導がなされてきましたか。
Q15	あなたは到達目標を達成できたと思いますか。
Q16	DWCLA10の内、この授業の履修を通してその獲得や向上に役立ったと感じられるものをすべて選んでください（複数選択可、なしも可）。*15番と16番は1つの質問として回答してください。 1.分析力 2.思考力 3.創造力 4.プレゼンテーション力 5.コミュニケーション力
Q17	（16番続き）DWCLA10のうち、この授業の履修を通してその獲得や向上に役立ったと感じられるものをすべて選んでください（複数選択可、なしも可） 1.リーダーシップ 2.思いやる力 3.変化対応力 4.自己管理能力 5.自己実現力
Q18	※遠隔で授業が行われた場合のみ回答してください。 遠隔での授業は滞りなく行われましたか。
Q19	任意項目
Q20	自由記述欄（上記回答の理由など、特記事項があれば記入してください。）

付録2：学科および科目区分の略称

略称	学科および科目区分
O	音楽学科科目
MS/J	メディア創造学科/情報メディア学科科目
K	国際教養学科科目
GS	社会システム学科科目
GK	現代こども学科科目
Y	医療薬学科科目
KG	看護学科科目
E	英語英文学科科目
N	日本語日本文学科科目
L	人間生活学科科目
S	食物栄養科学科食物科学専攻科目
SK	食物栄養科学科管理栄養士専攻科目
共通	共通学芸科目
キ・同	キリスト教・同志社関係科目
外国	外国語科目
スポ・健	スポーツ・健康科目
教職	教職科目